



さい 臍ヘルニア（でべそ）



さい 「臍ヘルニアって何？」

へその緒がとれた後、周りの筋肉が閉じずに残った場合を『さい臍ヘルニア』と言います。5～10人に1人の割合で起こります。

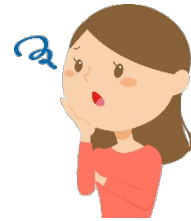
大声で泣いたり、いきんだりするとお腹に力が入り完全に閉じていないおへその下の筋肉の隙間から腸がおへそを持ち上げて飛び出します。

「どんな治療をするの？」

臍ヘルニアは1歳までに9割が自然に治ります。しかし、ヘルニアは治癒しても皮膚がたるんだ状態で飛び出たままになり、美容的な問題が生じることがあるため、臍ヘルニアをテープで圧迫して固定する方法が見直されてきました。

治療開始が早いと1～2か月で改善が期待できます。

- ①滅菌綿球をテープに貼り、綿球を臍に当てて圧迫しながらテープを貼ります。
- ②日常生活に制限はありません。
- ③テープがはがれたら交換します。(来院要)



「治療したらどうなるの？」

治療開始後、2～3か月で7～8割程度の治癒が見込めます。

ただし、筋肉の隙間が大きな場合やおへそと隙間の位置がずれる場合は治癒しにくいことがあります。

1～2歳でも臍ヘルニアが残っている場合には手術が必要になることがあります。

「合併症はある？」

テープによる皮膚のかぶれがおこることがあります。

この場合は、テープの使用を数日休むことで改善します。

テープを外すときは、水などで濡らして両端からゆっくりはがすことがポイントです。皮膚が正常な状態に回復したら圧迫療法を再開します。

「悪化させないために～小児はりの併用～」

臍ヘルニアを悪化させないポイントは、『便秘の改善』『泣かさない(無駄な腹圧がかからないようにする)』ということです。そのお手伝いをするのが小児はりです。

大人の鍼のように刺すものではなく、皮膚をさすり、羽毛で撫でられたような『フェザータッチ』の感触があり、気持ちいいのが特徴です。

最初は1～2日おきに施術し、様子を見ながら間隔をあけていきます。

